

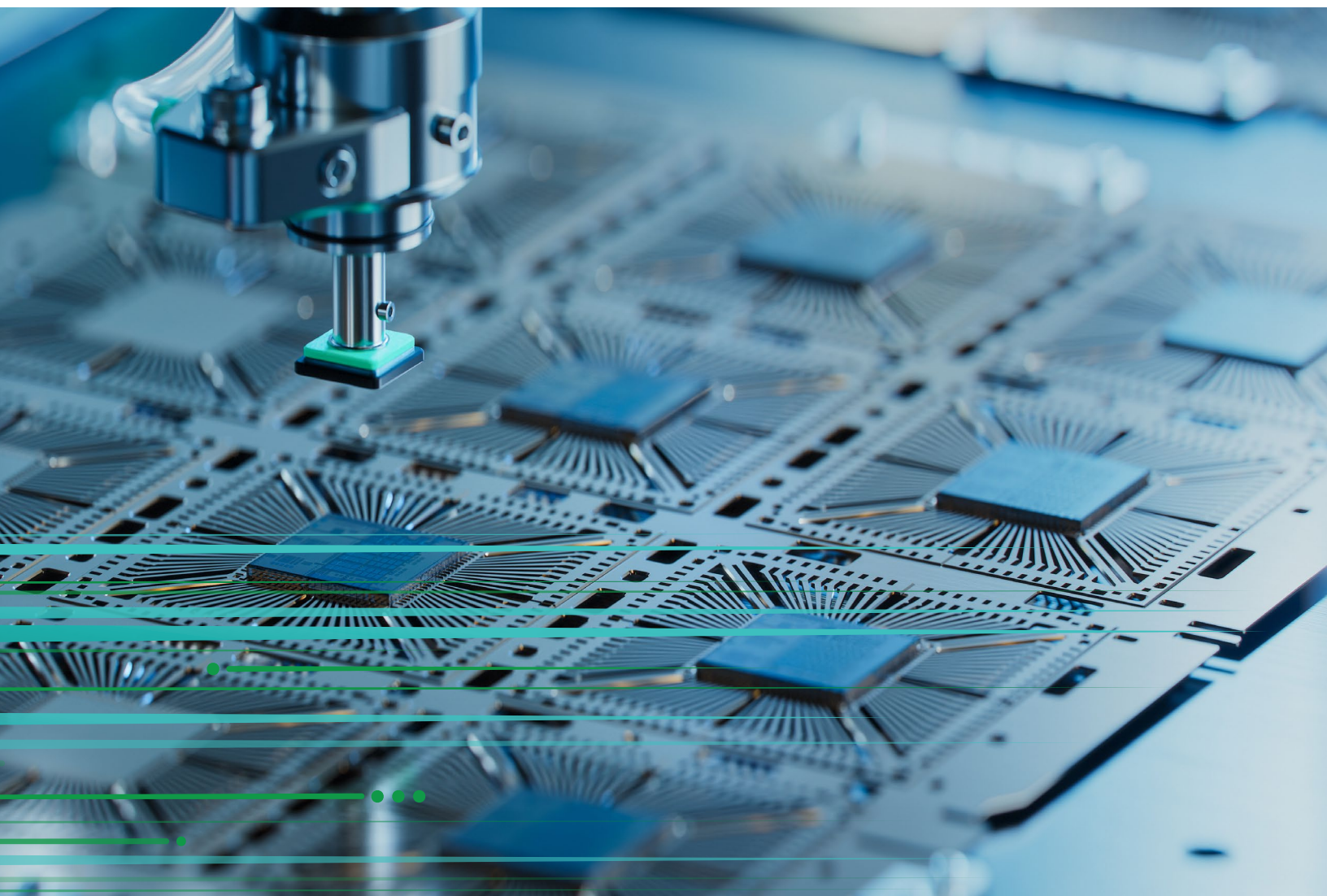


カスタマーストーリー

データ統合と分析

NEC

Qlik Replicate + Qlik Compose
でリアルタイムデータを取得



「情報の鮮度がビジネスの成否を大きく左右する時代、Qlik Replicate + Qlik Composeによってリアルタイムでのデータ取得と素早いデータ分析が可能になりました。」

NECパーソナルコンピュータ株式会社 ICT戦略部 シニアマネージャー 中島智久氏

自社の強みを生かした製品開発を加速させる

NECパーソナルコンピュータ株式会社（以下NECPC）はNECレノボ・ジャパングループの一員としてパソコン製品の企画、開発、製造及びパソコン関連の各種サービスを提供しています。日本市場におけるNECのブランド力とレノボの世界的な部材調達力を相乗させて競争力を高め、日本国内でのパソコン出荷台数はトップシェアを誇ります。

また、2019年に開始されたGIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクール構想を受けた新たなデバイスの開発、通信キャリアのニーズを組み入れたタブレット製品の開発など、変化する市場を見据えた企画開発力もNECPCの強みです。

NECレノボ・ジャパングループ創立以来、順調な歩みを進めるNECPCですが、「優れた技術力と優秀な人材だけでは市場で勝ち続けることは困難」だと同社ICT戦略部 シニアマネージャーの中島智久氏は言います。

「当社のように製品の企画から製造、販売、サポートと一貫したサービスを提供する企業にとっては上流から下流まで滞りない流れを維持することが重要です。ボトルネックを作らないためには情報の鮮度が大切です。常に最新のデータを利活用する仕組みが必要になります。DXが加速する中、ICT部門にとっては、それぞれの業務部門がよりの確な判断を下すための分析基盤やツールをどうやって提供し、どうサポートすべきかという大きなテーマを抱えています。」

2019年、中島氏らICT戦略部のメンバーは、より有益なデータ分析基盤が確立できるよう現状の課題を整理しながら、新たなシステム構築の検討を開始しました。

リアルタイムのデータ取得・分析基盤の確立を

NECPCでは基幹システムとしてSAP ECCを導入し、SAPコネクタを使用してデータをQlikViewに取り込み、データソースとして活用していました。しかし、その活用方法を続けるうちに改善すべき課題も見えてきた、と中島氏は言います。

ソリューションの概要

顧客名

NECパーソナルコンピュータ株式会社

業界

電機メーカー

所在地

東京都

適用業務

リアルタイムのデータ取得・データ分析

ビジネス価値の促進要因

再考されたプロセス

課題

SAPデータをバッチ処理し1日遅れでQlikViewへリロードするため、そこでは現在の正確なデータを把握できない

解決策

Qlik Replicate及びQlik Composeを使ってSAPデータをリアルタイムにQlik Senseに取り込み、迅速なデータ分析、素早いアクションにつなげる

成果

- リアルタイムのデータを把握できることで、より精度の高い意思決定、素早いアクションが可能になった
- Qlik Senseの共通画面により各部門でのレポート作成など負担が軽減し、スムーズなワークフローが確立された
- 使い勝手の良いツールがきっかけとなり、データリテラシーの向上に積極的に取り組む社員が増えた

「まず解決したい課題は“即時性”でした。当時はSAPのデータをバッチ処理し、1日1回QlikViewにリロードしていましたが、データが1日遅れになる事でファイナンスや資材所要量の計画などにどうしても絞り込めない部分が出てきてしまいます。リアルタイムにデータを提供できれば、さらに的確な状況判断につなげられると考えていました。」

また、当時QlikViewを使って様々なサービスを展開していましたが、思いの外ユーザが利用していなかったことも課題でした。

「せっかくBIツールを活用できる環境にありながら、QlikViewからデータをダウンロードしてExcelで加工したり、SAPクエリも提供していましたが、それもダウンロードしてExcelのピボットテーブルでデータを作成したりするユーザが少なくなかったのです。やはり皆が同じデータを同じように見られる環境でないと真の分析基盤とは言えず、それを整備していきたいという思いが強かったです。」

QlikViewを使いこなして分析に利用している人もいれば、使い慣れたExcelに頼る人もいる中で、皆が支障なくBIツールを活用できる環境をどう構築するかは容易ではありませんでした。

「さまざまな選択肢を視野に入れながら、ベストな道を探っていきました。」と中島氏は振り返ります。

Qlik Replicate+Qlik ComposeのPoCでつかった手応え

「創立以来Qlik製品を使っていましたし、そのメリットも理解していましたが、今回のデータ分析基盤の再構築にあたっては他社製品も含め広く検討していきました。」

中島氏らICT戦略部のメンバーが各社からの提案を受け検討を重ねる中で、目に留まったのがQlik Replicateでした。

「当時、Qlikではアクティブインテリジェンスというフレームワークを打ち出し、動的に変化するデータの“今”を把握するデータ統合・分析基盤の提供を推し進めていました。この考え方が“リアルタイムのデータを取得し分析につなげる”という私たちのニーズに合致したのです。」

早速、中島氏らはQlik Replicate及びQlik Composeを使い、一つの機能についてPoCを実行しました。

「PoCで他製品と生産性を比較しました。その結果、Qlik Replicate+Qlik Composeを使ったほうがITの工数を格段に

削減できることがわかりました。さらに、Qlik Replicate+Qlik Composeでレスポンスタイムを確認するためのテストも行いました。最初にデータを全件取得するには多少時間がかかりましたが、その後差分のデータを取得するのは遅延することなくスムーズで、これは本番の環境でも問題なく運用していけると確信しました。」

さらに中島氏はPoCで作成したレポートを各業務部門に評価してもらうとともに、Qlik Replicateを使いSAPデータをエージェントレスでQlik Senseに展開し、画面を確認しながらヒアリングを行いました。

「Qlik Replicate、Qlik Composeを用いたSAPデータのリアルタイムリロード、Qlik Senseのユーザビリティは、私たちICT部門だけではなく、各業務部門からも高評価を得て、自信を持って本格的な構築プロジェクトを始動することができました。」と中島氏は言います。

部門横断で進めたデータ分析基盤の再構築

Qlik製品を使ったデータ分析基盤の再構築は順調に進行し、当初想定した工数は40人月でしたが、実際は27人月と大幅に前倒して導入が完了しました。導入をスピードアップできた理由について、中島氏は次のように語ります。

「何と言っても、私たちのビジョンに対して、一連のQlik製品が一貫したポリシーでトータルに応えてくれたからだと思います。また、PoCの段階から、さまざまな業務部門を巻き込んで意見を聞き、それを構築の際に反映できたことも構築スピードに大きく影響しました。」

今回のデータ分析基盤の構築にあたってはそれぞれの業務部門ごとに業務内容に即したアプローチが行われましたが、Qlik Senseで共通のダッシュボードを利用するような統一した環境も生まれました。

「当初は想定していなかったことなのですが、ファイナンス部門用に作成したダッシュボードの使い勝手が良く、これは他の業務部門でも共通して使用できるのではないかと高評価で、ファイナンス部門が『出荷データは全社的にQlik Senseを見て報告するように』とアナウンスしました。これによって、各部門が独自に行っていたレポート作成も必要なくなり、いわば全社的に共通言語で会話をすることができるようになったのです。Qlik Senseがユーザビリティに優れ、直観的に操作できるため、無理なくこのような流れができたのだと感じています。」

余剰在庫のリスクを30%低減し、工数を160H削減

NECPCは分析基盤の再構築で目標としていたリアルタイムでのデータ取得を達成し、さらに新たな管理ツールを開発して余剰在庫を抱えるリスクを低減することにも成功しました。中島氏はそのプロセスについて次のように説明します。

「SAP上に在庫所要量一覧という画面がありますが、これは部材の品目一つに対して1画面しか見ることができません。これを解決するため、Qlik Sense上に複数の品目を一覧できるような管理ツールを作成しました。バイヤーが自分の担当の品目すべての在庫を1画面で確認でき、先々の所要まで表示することができます。」

今までバイヤーは在庫データをもとに勘と経験で先々の所要を予測し提示していたのですが、新たな分析基盤によってリアルタイムでSAPデータを入力し、ほぼ自動で需給計画を立てることが可能になりました。この管理ツールを使用することで、部材の余剰在庫のリスクを30%低減することができました。」

また、各業務部門でマニュアルで作成していたデータを自動化に移行したことで「年間約160時間の工数削減につながった」と中島氏は言います。「自動化は今後も積極的に進めて行く予定で、各業務部門と連携しながらより効果的に行っていきたいと思っています。」

新たな分析基盤の導入後、早い段階で次々と成果が出ている理由の一つに中島氏は「リアルタイムのデータを生かすQlik Senseの使い勝手の良さがある」と考えています。

「かつて、SAPのデータを1日遅れでQlikViewにリロードしていた時には、最新のデータを得たいユーザはSAPの元データを確認し、クエリからダウンロードしてデータ加工を行ったりしていました。それが今回Qlik Replicateを導入することでリアルタイムのデータ取得が可能になり、しかもQlik Senseは操作性が良く、検索が容易、データ加工もしやすい。SAPクエリで作成するよりもQlik Senseで操作した方がはるかにやりやすいと感じたユーザが非常に多かったのです。」

ただ、Qlik Senseは非常にユーザビリティに優れていても、使いこなすにはトレーニングが必要で、中島氏は引き続き社員全員のデータリテラシーの向上をはかりたいと言います。

「現在は主に各業務部門からデータリテラシーの高い人材を選定しトレーニングを行っていますが、必要に応じてトレーニングは臨機応変に進めていくつもりです。新しい分析基盤を導入したタイミングでは社員全員を対象に集中的にトレーニングを行いましたし、Qlikのサポートも一年間契約し、その中で種々のトレーニングを実施してもらっています。」

データ統合を加速しながら新たな分野に挑戦

新たな分析基盤が始動してから、ICT部門と各業務部門との連携はさらに密接なものになりつつあります。

「私たちICT戦略部ではユーザがどの程度利用しているかを常にチェックし、直接ヒアリングも行っていますが、システムの再構築後は概ね良好な回答を得ています。『ここをどうしたらいいのか』というトラブルの問い合わせよりも『こういうデータも付け足して見られるようにしたい』という前向きなリクエストが増えてきて、日々手応えを感じています。」

ユーザからの改善の要望を受け、システムはさらにブラッシュアップされながら使い勝手が向上されています。現在、さらなるデータの統合に向けた計画も進行中です。

「独自にシステムを構築しデータベースを備えてデータ提供している業務部門もあり、一部のデータに関してはSAPデータと結合して作成していたりします。今後そうしたデータも取り込んで自動でQlik Senseで結合して見せられるようにしたいと考えています。」

また、MES (Manufacturing Execution System) に関してはデータ取り込みも完了しています。こちらはまだQlik Replicateを導入していないので半自動化ではありますが、日本の生産状況のcockpitとしてグローバルレベルでベンダーなども生産状況や品質の状況を確認できるようになっています。」

さらに中島氏は業務部門にヒアリングしながらAutoMLについても活用を検討を進めているといいます。

「機械学習とは何か？というところからQlikにトレーニングをしてもらう予定です。AutoMLで何ができるのかを見つめ直し、各業務部門に『自分の業務分野だったらこんなことに使える』『この機械学習を使ったらこの課題がクリアできる』など、さまざまな発想を展開してもらうのが狙いです。」

その上で中島氏は今後もQlikからの提案を期待しているといいます。

「Qlik製品が新しくなるタイミングで色々な提案をいただけたらありがたいですね。Qlik製品は他社機能を買収したりしながら絶え間なく成長しているので、タイムリーな提案があれば私たちもぜひ挑戦していきたいですから。」

データ統合とリアルタイムデータ分析基盤を発展させるため、新たな挑戦を続けるNECPCをQlikは全力でサポートします。

成功の鍵



30

在庫所要量一覧をQlik Senseで作成し、余剰在庫のリスクを30%低減した



160

自動化が進み、各業務部門での工数が年間で約160時間削減された

「SAPデータをQlik Senseで展開するようになってから、多くのユーザーがその使い勝手を評価し、積極的なデータ統合への取り組み、データリテラシー向上への前向きな姿勢が現れるようになりました。」

NECパーソナルコンピュータ株式会社 ICT戦略部 シニアマネージャー 中島智久氏



Qlik について

Qlik は、複雑なデータランドスケープを実用的なインサイトに変換し、戦略的なビジネス成果を促進します。40,000 社を超えるグローバル顧客にサービスを提供している当社のポートフォリオは、高度なエンタープライズグレードのAI/MLと広範なデータ品質を活用しています。データ統合とガバナンスに優れており、多様なデータソースに対応する包括的なソリューションを提供しています。Qlik の直感的でリアルタイムな分析により、隠れたパターンが明らかになり、チームは複雑な課題に対処し、新しい機会をつかむことができます。当社のAI/MLツールは、実用性と拡張性を兼ね備えており、より良い意思決定をより迅速に導きます。戦略的パートナーとして、プラットフォームに依存しないテクノロジーと専門知識により、お客様の競争力が高まります。

qlik.com